

学び創造アクティブプラン通信2

子供はみんな よくなりたい できるようになりたい と願っている存在です



10月16日(火)「平成30年度所沢市学び創造アクティブプラン部会別会議(学校部会)」

1部: 研究委託校代表者による中間報告と協議

協議題『学力向上』のための授業改善に関する自校の成果と課題(裏面参照)

2部: 元文教大学教授 嶋野道弘先生による指導講評と講演

演題「45・50分の授業改革Ⅲ ～効果のある学び合いを実現する」

「教師にとって児童・生徒は他者であるから、教師が教えた通りには学ばれていない。だからこそ『子供同士の学び合い』『学習状況の観察』『振り返り』等が必要なのである。」

学び創造アクティブプラン学校部会 嶋野先生の講演から

- 「学び合い」の可視化
 - 学び合いを実感できた!
 - 考えが深まった! 変わった!
 - 思考の「可視化」
 - ぼくは3つ考えられた!
 - 思考の「操作化」
 - 考えを整理しよう!
 - より良い考えを選ぼう!
 - 一人一人の存在の可視化
- 黒板に「児童生徒の考え」を貼ること自体がすでに発表である。子供が説明する時間は省略できる。
- 振り返り**
- 「振り返り」によって
- 他人事から自分の学びへ
 - 理解の状況、取組の姿勢、態度の自己診断
 - 【例】とてもよく分かった
 - 学びの過程の自己診断
 - 【例】はじめは分からなかったけれど理解の捉え直し
 - 【例】もっとよいやり方に気付いた
 - 満足感や充実感等の味わい直し
 - 【例】時間が短く感じた
 - 次の学びへの期待、思いや願い
 - 【例】もっとやりたくなった。

- めあての提示後
 - 見通しの場面で問いかけて、これから始まる学びへの期待を高める。
 - 【問いかけの例】
 - 解決できそうですか?
 - 最後まで取り組めそうですか?
 - どのくらい時間が必要ですか?
 - 参加できそうですか?
 - やれることがありますか?
- 「対話的な学び」の具現には「可視化」が肝心である。

めあて、学び合い、まとめ、振り返りの合一を図る。

学び創造アクティブプラン進捗状況調査より

(1) 本時のめあて(学習課題)を明示し、見通しをもって授業を開始し、授業の最後に、児童生徒が自分の言葉で学習のまとめをする。

回答選択肢		H29 9月	H30 9月
ア 達成度 80%以上	概ね達成できている。	26校	24校
イ 達成度 60%以上~80%未満	定着してきたが、もう一步の取組を要する。	21校	20校
ウ 達成度 40%以上~60%未満	定着が十分とはいえない。	0校	2校
エ 達成度 40%未満	平素の授業では取組度が低い。	0校	1校

(2) 協同的な学習、UDの視点を取り入れた授業、思考ツールの活用等

回答選択肢		H29 9月	H30 9月
ア 達成度 80%以上	概ね達成できている。	3校	9校
イ 達成度 60%以上~80%未満	定着してきたが、もう一步の取組を要する。	38校	33校
ウ 達成度 40%以上~60%未満	定着が十分とはいえない。	6校	5校
エ 達成度 40%未満	平素の授業では取組度が低い。	0校	0校

「学び創造アクティブプランの進捗状況調査」の結果より抜粋

(1)は「学び創造アクティブプランへの先生方の意識の向上から、評価が厳しくなっていること」「児童の言葉によるまとめや振り返りが難しい」などの理由が考えられます。



(2)については、指導訪問等における授業の様子等からも、各校で授業改善に取り組んでいる結果と捉えております。今後も各校の取組やアイデアの共有、情報提供をより一層推進して参ります。

平成31年2月7日(木) 13:30~
学び創造アクティブプラン学力向上推進事業研究委託校研究報告会
に是非お越しください。

	<p>成果 活用法</p> <p>めあての提示が定着、授業に流れができた。</p> <p>「めあて」や「考察」等の学校共通の学習過程カードを使用している。</p> <p>一時間の流れや、その時に指導すべきことが明確になった。(道徳)</p> <p>授業の流れがある程度決まっているので、児童も見過しをもって学習に取り組んでいる。</p> <p>めあての提示や学習活動くまどめの一連の流れが、どの教科でも定着している。</p> <p>授業の構造化のための手立てを共通理解できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書・フラッシュカード <p>学習の流れについて教師はもちろん、児童も理解している。</p>
<p>見通し</p> <p>ワークシートで自分の考えを書くことにより、発表しやすくなった。</p> <p>学び合いの時間を大切に考えている教師が増えている。(交流化)</p> <p>人間関係が向上(認め合う態度)</p> <p>対話が自然と行われる。</p> <p>小グループによる授業形態など取り入れることが増え、学び合いをしている先生方が増えた。ICT活用増加</p> <p>「考え、議論する道徳」のため、議論すべきことを明確にした上で、思考ツール等を利用した話し合いが多くされるようになった。</p>	<p>学び</p> <p>様々な教科の中で、少人数(ペア・ア・班の中での話し合い)をすることで、自分の意見を言うこと、聞くことができるようになった。</p> <p>聞く(聴く)姿勢が身についた。</p>
<p>まとめ</p> <p>児童の言葉でまどめができるような研修・模擬授業を行った。</p> <p>「まどめ」「振り返り」を研修で理解し、全教員が一時間の授業の中で、まどめ・振り返りを行っている(行おうとしている)。</p> <p>振り返りを自分の言葉でたくさん書くことができたようになった。</p> <p>振り返りによって「教師自身の授業の振り返り」が促されるようになった。</p>	<p>ふりかえり</p> <p>「まどめ」「振り返り」の進みを再認識し、共通理解を図った。</p>
<p>その他</p> <p>教師の研究意欲の向上</p> <p>「児童主体」の授業改善に向けた共通認識</p> <p>研究部や学年でお互いに授業を見合い、指導力の向上を図る機会が増えた。</p> <p>読書活動の推進をしている。</p> <p>部会や夏の研修で道徳の評価文例を作成</p> <p>夏の太月先生の研修により、子供の見方が多面的になった。</p> <p>ICTを活用し、生徒が視覚的に「わかる」授業を展開している場面が多くなった。</p> <p>〇〇中タイムを二年半継続して、家庭学習の時間が全体的に伸びている。</p> <p>全教員が「学力向上」に対して真剣に向き合って研修に取り組んでいる。</p> <p>教科化に向け、情報共有(部会等)でき、日々の授業で意識して取り組んでいる。会話が広がった。</p> <p>推進教員の授業公開で学習会を行っている。</p> <p>↓教師が何をすべきか明確にする。</p> <p>年間計画に基づき、確実に授業を準備できた。</p> <p>外部機関との連携による広がりが</p> <p>道徳問題の時間をコース毎、実態に合わせて設定。基礎基本が定着しつつある。</p>	<p>課題 改善策</p> <p>めあての立て方がうまくいかないことがある。</p> <p>「めあて」と「まどめ」が正対しないことがある。</p> <p>教師の意図が明確でないことがあり、「めあて」と「まどめ・振り返り」が合致していないことがある。</p> <p>「まどめ」から授業を組み立てる。</p> <p>学習の流れの各段階の意味をしっかりと理解できていない教員もいる。</p> <p>課題意識がもてないまま、授業に取り組んでいる。</p> <p>本時の見通しをもたせる手立が不十分なことがある。(可視化・構造化が足りない)</p>

<p>課題 改善策</p> <p>めあての立て方がうまくいかないことがある。</p> <p>「めあて」と「まどめ」が正対しないことがある。</p> <p>教師の意図が明確でないことがあり、「めあて」と「まどめ・振り返り」が合致していないことがある。</p> <p>「まどめ」から授業を組み立てる。</p> <p>学習の流れの各段階の意味をしっかりと理解できていない教員もいる。</p> <p>課題意識がもてないまま、授業に取り組んでいる。</p> <p>本時の見通しをもたせる手立が不十分なことがある。(可視化・構造化が足りない)</p>	<p>質問 深い学びに到達しない→「問い」の問題?</p> <p>「何を考えさせるか」とどうやって話し合つか」を常に考えている。</p> <p>意見を出す児童が固定されてしまうことがある。</p> <p>深い学びの届かないことがある。</p> <p>内面的な成長の把握が難しい。</p> <p>話し合う機会・回数が増えども、生活の中で生かしているのかあまり見えてこない。</p> <p>・心構え(この工夫)</p> <p>・インタラクティブで子供の思いを聞く。</p>
<p>まどめ方に十分子供の言葉を生かしていない</p> <p>振り返りを次に生かし切れていない</p> <p>「振り返り」の時間が取れず、全体的な定着にはまだなっていない現状。</p> <p>まどめの仕方に教科の差や、教師の差がある。一時間でのまどめに効果があるのか。どうしても一時間でまどめられない等</p> <p>「深い学び」の見取りを振り返りカード以外でどうしていけば良いか。</p> <p>振り返りの継続と活用</p> <p>↓振り返りを一枚のポスターにまとめる。</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 始めに「振り返り」をやることを示しておく。 キーノートを与える。 「振り返り」カードを毎回書きかせる。 「振り返り」を次時に活用するものにする。 	<p>教員によって、やっているかどうかは分からない。</p> <p>外国語の授業の内容を、支援員に頼ってしまっている部分が多い。</p> <p>児童の学力に課題がある。基礎学力の向上を目指さないといけない。</p> <p>低学力の生徒への対応</p> <p>↓誰がどのコースを担当しても児童がわかる授業になるようコースのポイントを定める。</p> <p>↓コースの選り分け</p> <p>↓下位のコースに特別支援教育的スキルを多く入れる。</p> <p>外国語の授業内で児童の評価が難しい。主に話す、聞くの評価。</p> <p>子どもの見方に対する対応策が十分でない。</p> <p>不安があるところがまだ残る。(年間計画・評価)</p> <p>ICT機器を道徳の授業の中で活用できていない。</p> <p>昨年度(一年目)の成果と課題をもう一度まどめおこなったことにより、今年度が一年目のような状態にある。</p> <p>計画 見直し 来年度の方針の引継ぎ</p> <p>家庭学習の時間は伸びたが、学力向上との関係性が明白ではない。授業との関連も明確化されていない。</p>

学び創造アクティブラン部会別会議(学校部会)10月16日(火)のグループ協議の中で、参加者から下記の協議の視点で出され、協議されたカードを1時間(4分・50分)の流れの中に並び、整理したものです。協議の視点:「学力向上」のための授業改善に関する自校の成果と課題